

< 新任研修主任研修 >

実践発表資料「教職員が共に高め合う研修組織の在り方」

平成23年5月25日(水) 10:30 ~ 11:00

於：群馬県総合教育センター 704研修室

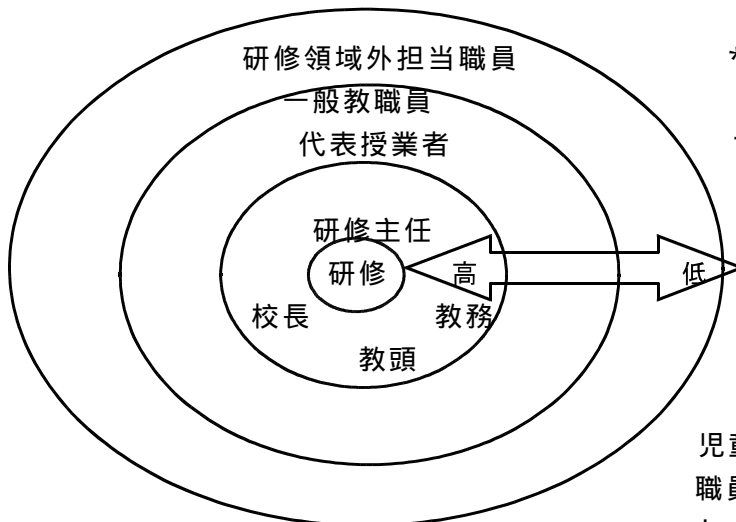
前橋市立東小学校 石田 俊彦

1 はじめに 研修主任歴

回	年度	所属校	研修テーマ	指定等
1	平成10	藤岡市立 小野小学校	「互いに認め合う、心豊かな児童の育成」 (第1年次) - 互いのよさを認め、ほめ、伸ばす支援の工夫 - (第2年次) - 全教育活動の中に、 児童相互のふれあいの場を取り入れて -	市教委指定「同和教育実践推進校」 前年度まで文部省指定「いじめ対策地域連携モデル市町村」
2	11	〃	「自ら進んで行動できる、 心豊かな児童の育成」 - 総合的に単元構成した道德教育を通して -	「群馬県小学校道徳教育研究協議会」の会場校として授業公開
3	14	伊勢崎市立 豊受小学校	「思いやりと奉仕の心もち、 自ら実践する児童の育成 - 充実した社会福祉活動を通して -	群馬県及び伊勢崎市指定「社会福祉協力校」
4	15	〃	「思いやりと奉仕の心もち、 自ら実践する児童の育成」 - 全教育活動が連動した 社会福祉教育・食農教育を通して -	群馬県及び伊勢崎市指定「社会福祉協力校」 県農政指指定「食農教育」(子どもたちの農業体験学習推進事業)
5	16	〃	「相手の心を感じ取れる 人間性豊かな児童の育成」 - 各教育活動との関連を重視した、 豊かな体験活動を通して -	県農政指指定「食農教育」(子どもたちの農業体験学習推進事業) 市教委指定「都市間交流教育推進校」 「伊勢崎市豊かな体験活動推進事業」の開始
6	17	藤岡市立 藤岡第一小学校	「目的や場面に応じて 適切に文章表現できる児童の育成」 - 国語科を中核とした 意図的・計画的な「書く活動」を通して -	
7	18	〃	「自他の大切さを認め合い、 明るく前向きに行動できる児童の育成」 - 全教育活動における人権尊重を基軸とした実践を通して -	文部科学省指定「人権教育総合推進地域」
8	19	〃	「自他の大切さを認め合い、 明るく前向きに行動できる児童の育成」 (1年次) - 全教育活動における人権尊重を基軸とした実践を通して - (2年次) - 「他者とのかわり」に視点を当てて -	文部科学省指定「人権教育総合推進地域」 藤岡市教委指定「人権教育実践推進校」
9	20	〃	「自他の大切さを認め合い、 明るく前向きに行動できる児童の育成」 (1年次) - 全教育活動における人権尊重を基軸とした実践を通して - (2・3年次) - 「他者とのかわり」に視点を当てて -	文部科学省指定「人権教育総合推進地域」 藤岡市教委指定「人権教育実践推進校」

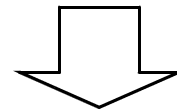
* 回数はやっていますが、最近はやっていないので、参考になるかどうか心配です・・・

2 教職員の研修に対する意識のレベル



* 意識のレベルは、教職員により様々。

* 必要感、責任感、経験年数、児童観、研修内容の認識度などの違い



取り組みが一枚岩にならない

児童の変容など大きな成果が得られない。
職員の達成感も得られない。
しっかりとした課題も見えず、次年度につながらない。

3 教職員が共に高め合う研修組織にするために

(1) 共通理解 1

前年度～年度初め

* 児童の実態、時代や社会の要請、本校の立場、めざす児童像、必要な研修などをアンケートなどにより把握し、職員に示す。

【資料1「アンケート3回目の集計結果」】

年度初め

* 確定的なものではないが、研修テーマ、テーマ設定の理由、研修のねらい、研修の見通し、研修計画、研修内容等を職員に提示し、研修主任の考えを理解してもらったり、意見をもらったりして、研修の方向性を定める。

【資料2「第1回推進委員会（H.18.4.21）」】

【資料3「第2回推進委員会（H.18.5.15）」】

【資料4「校内研修計画」】

【資料5「第1回全体会（H.20.5.12）」】

年度途中

* 研修経過の確認、今後の研修計画・内容の確認

研修主任からだけではなく、各部、各学年などからの報告をする。

【資料6「(職員会議資料)校内研修関係(H.20.7.7)」】

年度末

* 成果と課題を確認し合う。(児童の変容ぶり、職員の成長などの視点)

(2) 共通理解 2

学習会の実施【資料7「人権教育に視点を当てた授業を創るために」PART】

「研究の全体構想図」の提示【資料8】

指導案形式の提示【資料9】

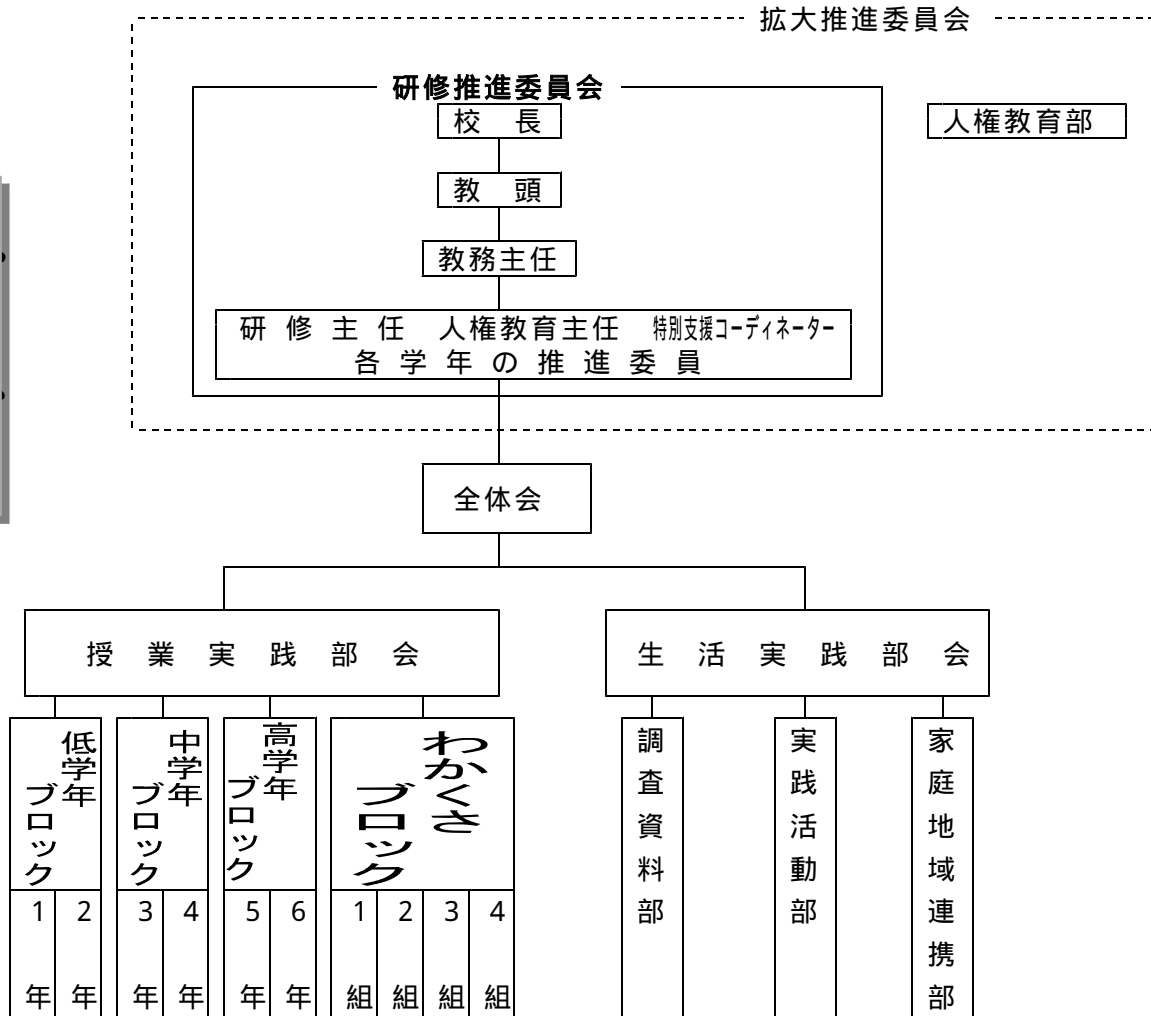
触れ合う・知り合う

学び合う

(3) 所属意識・当事者意識の喚起

人は役割が与えられると、所属意識を感じ、責任感や当事者意識が高まる。
そこで、次のような研究組織を作った。(藤岡第一小(H.18~20))

支え合い



研究推進委員会 ...校長、教頭、教務主任、研修主任、人権教育主任、特別支援コーディネーター、各学年（専科、特別支援学級を含む）1名の13人で構成し、研修の企画や内容の検討及び授業実践部会や生活実践部会との連絡・調整を行う。

他の学校や地域との連絡・調整を行う。

* 拡大推進委員会は、人権教育部を含めたもので、必要に応じて開催する。

全体会 ...全員参加で、授業実践並びに生活実践をする上での諸問題について協議したり情報交換したりするとともに、理論研修などの各種の研修を行う。

授業実践部会 ...「直接的指導」「間接的指導」の内容を洗い出し、関連づけをする。
学年・ブロックを中心に研究授業を積み重ね、指導案の検討や授業研究会を行う。なお、専科等の教員もいずれかの学年・ブロックに所属する。

生活実践部会
・調査資料部 ...児童の実態調査や保護者の意識調査を実施し、その結果を集計・分析することにより、実践活動に生かせるようにする。

- 先進校の資料を収集し、本校の実践に生かす。
- ・実践活動部 ...学年に応じた常時指導の内容を洗い出し、系統づける。
全校規模で実践する活動の中で、特に生徒指導や委員会活動にかかわるものを見直したり、新たな活動を企画したりする。
 - ・家庭地域連携部...新聞や文献等からの参考資料、児童及び保護者からの作文や感想文などを収集する。
収集した資料等や調査資料部によるアンケートの分析、様々な指導による児童の変容ぶりなどを人権だより「トライアングル」にまとめ、配布することにより、保護者を啓発していく。
各学年や全校での実践の様子をWebページで発信していく。

授業実践部会のメンバー（ ...学年主任 ...推進委員）

学 年	メ ン バ ー	
1 年	中山 酒井 齊藤 門倉	(布川)
2 年	梅原 早坂 野口 鈴木	
3 年	矢木 町田 阿部 (黒澤 新井 根岸) <北原>	
4 年	石田 笹澤 小西 <高橋>	
5 年	石淵 須藤 田中 <磯部>	
6 年	松本 菅原 今井 曾我部 <角田>	
わかくさ	中山 古川 岡本 佐藤(大島 山崎 若林 佐々木) <長井>	

* 全教員が、授業実践部会に所属する。

< >内は7年(担任外)の教員

()内はさくらプラン非常勤講師・特別支援学級助手・適応指導員

生活実践部会のメンバー< ...リーダー ...サブリーダー *推進委員から選出>

学年	メンバー	調査資料部	実践活動部	家庭地域連携部
(1年)	中山、酒井 齋藤、門倉	(2) 中山 門倉	(1) 齋藤	(1) 酒井
(2年)	梅原、早坂 野口、鈴木	(1) 梅原	(1) 野口	(2) 早坂 鈴木
(3年)	矢木、町田 阿部	(1) 町田	(1) 矢木	(1) 阿部
(4年)	石田、笹澤 小西	(1) 小西	(1) 笹澤	(1) 石田
(5年)	石淵、須藤 田中	(1) 石淵	(1) 田中	(1) 須藤
(6年)	松本、菅原 今井、曾我部	(1) 菅原	(2) 今井 曾我部	(1) 松本
(わかくさ1・2・3・4組)	古川、佐藤、 中山、岡本	(2) 中山 佐藤	(1) 古川	(1) 岡本
(7年)	長井、磯部 角田、高橋 北原	(1) 磯部	(2) 角田 北原	(2) 高橋 長井
合計人数		10人	10人	10人

* 全教員が、「調査資料部」「実践活動部」「家庭地域連携部」に所属する。

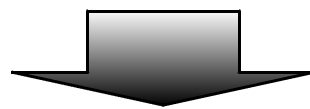
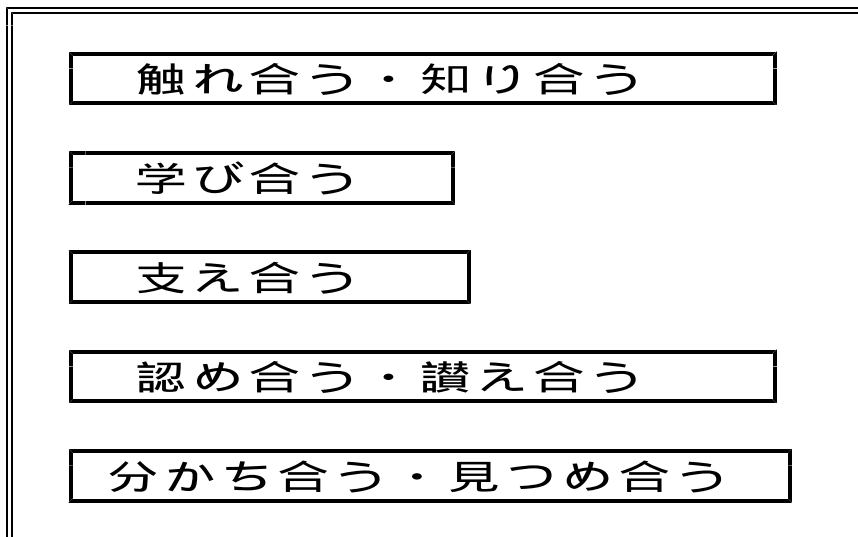
認め合う・讃え合う

- (4) 研究授業・授業研究会の実施
学年内・ブロック内・代表研究授業(校内・校外)
授業研究会
【資料10「研究授業記録用紙」】【資料11「研究授業・授業研究会の係分担」】

- (5) 情報の共有と認め合い
研修だよりの発行 【資料12「研修だより『アプローチ』」】
先進校の実践資料の入手と情報提供
研修報告会の実施 【資料13】

分かち合う・見つめ合う

- (6) 成果の分かち合いと課題の見つめ合い
その年度での成果(児童・生徒のよい変容、教職員の成長、家庭・地域からの信頼)を確認し、成就感や達成感を分かち合う。
課題を見つめ合い、次年度への橋渡しをする。(アンケートの実施と分析)



教職員が
共に高め合う
研修組織